

## 獨協医学会

会 長 吉田 謙一郎 (獨協医科大学 学長)

### 運 営 委 員

千種 雄一*	石光 俊彦**	朝戸 裕貴	板垣 昭代	稲葉未知世
黒田 一	黒須 明	中島 敏明	小嶋 英史	田中 康広
桑島 成子	志水 太郎	西山 緑	濱口 眞輔	深美 悟
増田 道明	松島 久雄	原澤 寛	森田 公夫	矢澤 卓也
安士 正裕	吉原 重美			

\*委員長 \*\*副委員長

### Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	矢澤 卓也**	稲葉未知世	黒須 明	桑島 成子
中島 敏明	濱口 眞輔	安士 正裕	吉原 重美	

\*委員長 \*\*副委員長

### Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集事務員

松本智恵子

## 編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol. 46, No. 3 (獨協医学会雑誌 46 巻 3 号) をお届けいたします。本号には、原著論文 (英文) 2 編が掲載されております。また本号では、「最近の癌治療」と題して 13 編の特集が組まれております。著者の先生方にはご多忙のところ、本学において展開されている最新の癌治療についてご投稿いただきました。深く感謝いたします。また、日頃より獨協医学会の活動に多大なるご支援をいただいております関係各位、会員の皆様には、心より御礼を申し上げます。

長寿国日本では、一生のうち 2 人に 1 人は癌に罹り、3 人に 1 人は癌で亡くなる時代になっておりますが、この 10 年で治療薬は飛躍的に進歩し、手術も可能な限り切除範囲の狭い低侵襲な術式が開発されてきています。また、癌はもはや特別な不治の病ではなく、うまく癌と付き合いながら寿命を延ばすという方向へと癌治療も進んでいます。さらに、未だに予後不良なタイプの癌に対しては、次世代シーケンス解析により判明した異常遺伝子情報に基づく分子標的治療や癌ゲノム診療も積極的に行われるようになっております。

このような実臨床において、癌細胞が有する遺伝子異常についての知識はもはや必要不可欠な状況となっているため、我々医師や医学研究者は、かつては一部の癌研究者のみが研究対象にしかしてこなかった遺伝子異常についての知見を、

医学部学生に対して広くかつ深く教授していく必要性が生じています。これを怠ればどのような将来が我々を待ち受けているか？ おそらく人工知能 (AI) の出す結論に何の疑いも持たず、自分の思考で治療方針を決定できない、リサーチマインドの欠落した医師を量産していくことになるでしょう。

私は病理医、病理学研究者であり、また癌の遺伝子異常はまさに分子病理学が扱っている学問領域であることから、本学に赴任以来、一貫してリサーチマインドの重要性を学生に教授しています。また本学および筑波大学、自治医科大学の病理部門が協働する形で、2017 年度から「病理専門医資格を担保した基礎研究医養成活性化プログラム」(文部科学省科学研究費事業) を推進しております。そしてその中で、癌の発生進展と遺伝子異常との関連性について、癌遺伝子や癌抑制遺伝子といった単純な話で片付く問題ではないことを、実際に学生にウェットラボを経験してもらうことで体感させています。

今後の獨協医科大学の発展のためには、本学における教育、臨床、研究が三位一体となり、バランスよく推進されることが望まれます。獨協医学会、そして獨協医学会誌がさらなる発展を遂げるため、今後もより一層のご支援、ご高配を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

(矢澤卓也)

2019 年 10 月 20 日印刷

第 46 巻 第 3 号

2019 年 10 月 25 日発行

編集発行人

獨協医学会

吉田 謙一郎

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地  
獨協医科大学

Tel (0282) 87-2484

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町 27

Tel (03) 3260-6136